

Indicators Update

2012年1月31日 全6頁

12月鉱工業生産～タイの大洪水の反動から生産増

経済調査部 エコノミスト 長内 智

今後の生産は底堅く推移する見通し

[要約]

- **【概況】生産は横ばい圏で推移**：2011年12月の生産は、11月に低下した反動増によって拡大したが、総じてみれば横ばい圏での推移となった。生産指数は前月比+4.0%と2ヶ月振りのプラスとなり、市場コンセンサスを上回った。実質設備投資（GDPベース）の先行きを占う上で注目される10-12月期の「資本財出荷（除く輸送機械）」は、前期比▲0.7%と2四半期連続のマイナスとなった。
- **【業種別の動向】情報通信機械と輸送機械が反動増**：12月の生産を業種別にみると、速報値が公表されている16業種中10業種の生産が拡大した。生産の拡大が目立つ業種は、タイの大洪水で低下した生産の反動増が顕著に現れた「情報通信機械」と「輸送機械」である。最近、急速に普及が進むスマートフォン関連の生産動向が注目されている。業種・品目別では、好調な海外メーカーからの受注拡大によって、「半導体製造装置」の生産に持ち直しの兆しが出始めている。
- **【今後の見通し】生産は底堅く推移**：生産の先行きは、東日本大震災の復興需要やエコカー補助金（環境対応車普及促進対策費）が下支えとなり、徐々に回復軌道へ戻ると考えている。短期的には、タイの大洪水で落ち込んだ生産を取り戻す動きもプラスに作用する見込みである。

【概況】生産は横ばい圏で推移

生産は市場コンセンサスを上回る

2011年12月の生産は、11月に低下した反動増によって拡大したが、総じてみれば横ばい圏での推移となった。生産指数は前月比+4.0%と2ヶ月振りのプラスとなり、市場コンセンサス(同+3.0%)を上回った。また、出荷が前月比+4.5%と拡大する中で、在庫指数が同▲2.9%と2ヶ月連続のマイナス(改善)となった結果、在庫率指数が同▲3.6%と3ヶ月連続のマイナス(改善)となった点も評価できる。ただし、今回の生産拡大は、タイの大洪水で大きく落ち込んだ生産の反動増によるもので、事前に予想されていたことから、全体的には想定内の結果だったと言えよう。10-12月期の生産指数は、前期比▲0.4%と僅かながらも2四半期振りのマイナスとなった。震災以降、着実に回復してきた生産が、復旧の一巡と海外経済の減速の影響で足踏みしたことが示された。また、実質設備投資(GDPベース)の先行きを占う上で注目される10-12月期の「資本財出荷(除く輸送機械)」は、前期比▲0.7%と2四半期連続のマイナスとなった。実質機械受注(船舶・電力を除く民需、当社試算)が鈍化傾向にあることを踏まえると、実質設備投資は弱含み状況が続く公算が大きくなった。

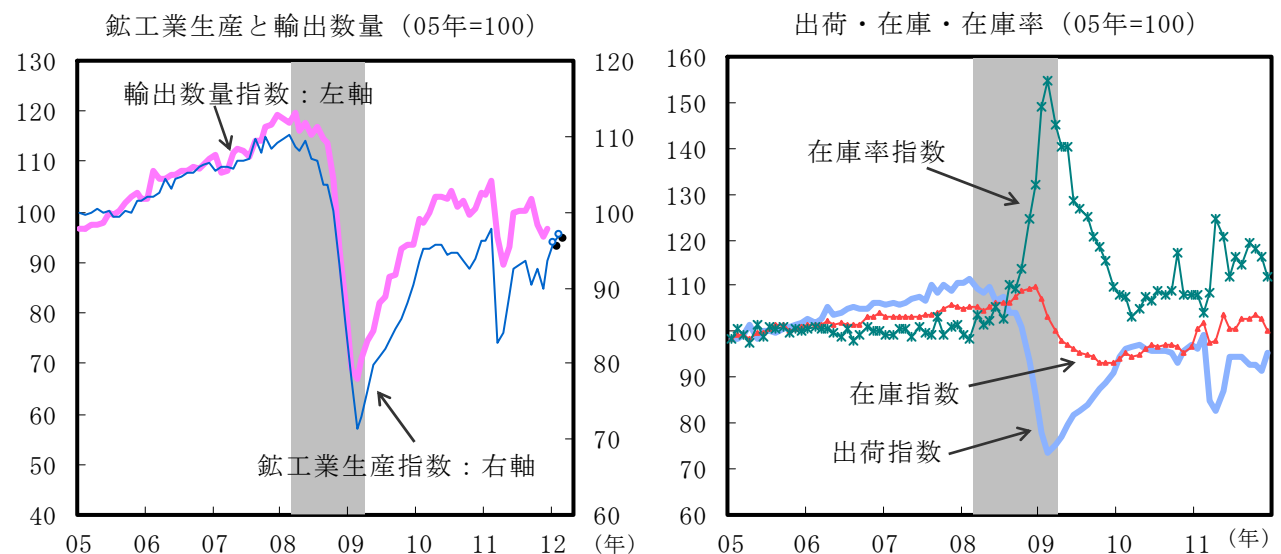
図表1：鈹工業生産の概況(季節調整済み前月比、%) ~ 在庫率が3ヶ月連続で改善

	2011年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
鈹工業生産	0.0	1.8	▲15.5	1.6	6.2	3.8	0.4	0.6	▲3.3	2.2	▲2.7	4.0
コンセンサス												3.0
DIR予想												2.5
生産者出荷	▲0.8	3.3	▲14.6	▲2.6	5.3	8.1	0.1	0.2	▲2.0	0.2	▲1.6	4.5
生産者在庫	3.9	1.5	▲4.2	0.5	5.6	▲2.8	▲0.1	2.1	▲0.1	0.9	▲0.6	▲2.9
生産者在庫率	▲0.1	▲3.3	4.1	14.9	▲3.3	▲7.3	4.0	▲1.4	3.8	▲0.9	▲1.6	▲3.6

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) 経済産業省、Bloombergより大和総研作成

図表2：生産・出荷・在庫の推移(季節調整値) ~ 生産予測調査は堅調な回復を示唆



(注1) 生産指数の直近2ヶ月の値は、製造工業予測指数による。

(注2) シャドローは景気後退期。

(出所) 経済産業省、財務省、内閣府統計より大和総研作成

【業種別の動向】情報通信機械と輸送機械が反動増

幅広い業種が拡大

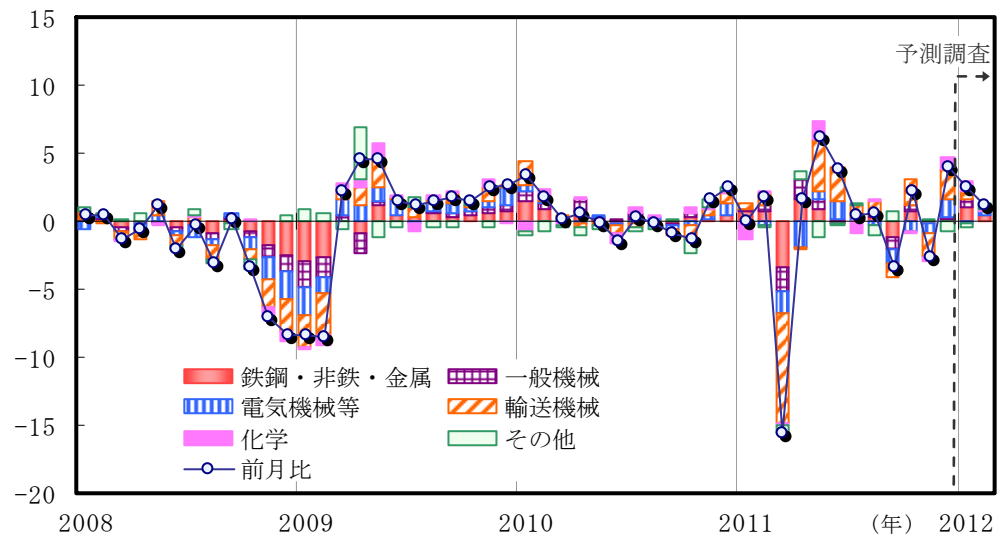
12月の生産を業種別にみると、速報値が公表されている16業種中10業種が生産が拡大した（11月は8業種が拡大）。生産の拡大が目立つ業種は、タイの大洪水で低下した生産の反動増が顕著に現れた「情報通信機械」と「輸送機械」である。「情報通信機械」は前月比+34.8%と5ヶ月振りの大幅拡大となり、「輸送機械」は同+12.3%と2ヶ月振りの2桁増となった。他方、生産が低下した業種では、「化学（除く医薬）」が前月比▲3.4%と2ヶ月振りのマイナス、「鉄鋼」が前月比▲0.8%と2ヶ月連続のマイナスとなった点が注目される。この背景として、国内で震災からの復旧需要が一服したことやアジア新興国の経済減速で海外向け出荷が弱含んでいることなどが指摘できる。

「半導体製造装置」に 持ち直しの兆し

最近、急速に普及が進むスマートフォン関連の生産動向が注目されている。業種・品目別では、好調な海外メーカーからの受注拡大によって、「半導体製造装置」の生産に持ち直しの兆しが出始めている（図表4）。「携帯電話」の生産は、タイの大洪水で大きく落ち込んだ生産の反動増が見込まれる一方で、国内メーカーがシェア争いで苦戦していることを背景に、洪水の反動増の効果を除くと、ほぼ横ばい圏での推移がしばらく続くと考えられる。また、スマートフォンの普及によるデータ通信量の大幅増加に伴って、携帯電話事業者が設備増強を進めるとみられ、「基地局通信装置」などの生産を押し上げることが期待される。しかし、生産拡大の動きがまだみられないことに加えて、同品目のウエイトが小さいことから、今のところ生産全体への影響は限定的なものに留まる公算である。

図表3：鉱工業生産と寄与度 ～堅調な回復が続く見通し

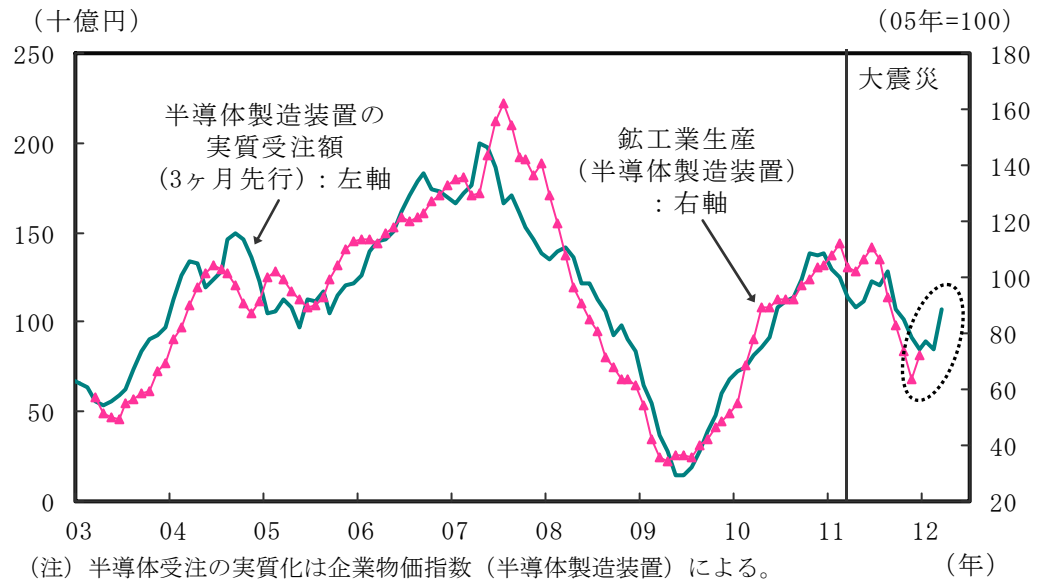
(季節調整済み前月比、%)



(注) 電気機械等は、「電気機械」、「情報通信機械」、「電子部品・デバイス」の合計。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

図表 4 : 半導体製造装置の受注と半導体製造装置の生産

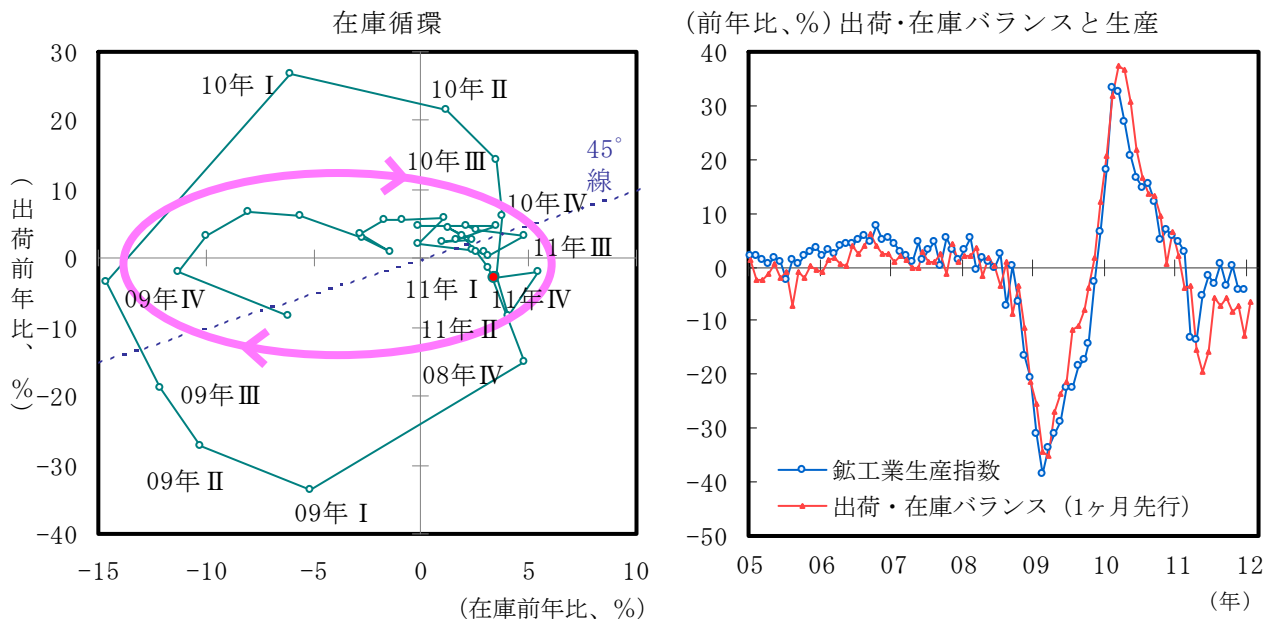


【今後の見通し】生産は底堅く推移

予測調査は生産拡大を示唆

生産の先行きは、東日本大震災の復興需要やエコカー補助金(環境対応車普及促進対策費)が下支えとなり、徐々に回復軌道へ戻ると考えている。短期的には、タイの大洪水で落ち込んだ生産を取り戻す動きもプラスに作用する見込みである。製造工業生産予測調査は、2012年1月分の生産計画が前月比+2.5%、同年2月分が同+1.2%となった。この結果に基づく、生産の2012年1-2月平均の2011年10-12月対比は+4.9%と、生産は2四半期振りにプラスへ転じ、しばらく底堅く推移する公算である。ただし、当社は、海外経済の減速や円高の長期化などが引き続き生産の重石になるリスクを注意深く見極めていきたいと考えている。

図表 5 : 在庫循環、出荷・在庫バランス～ 出荷・在庫バランスに改善の兆し

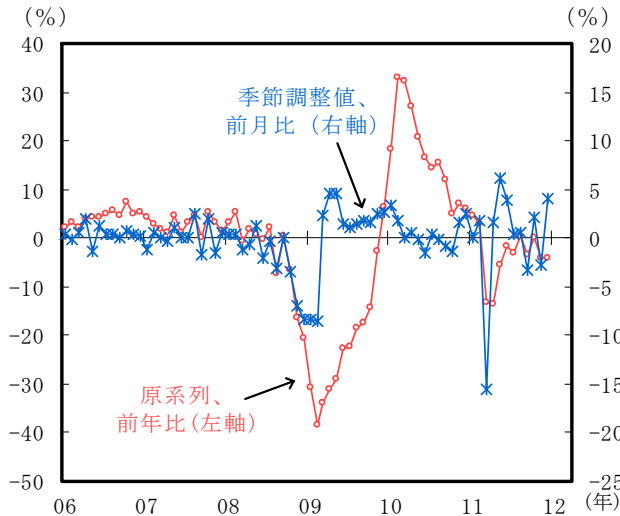


(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

概況

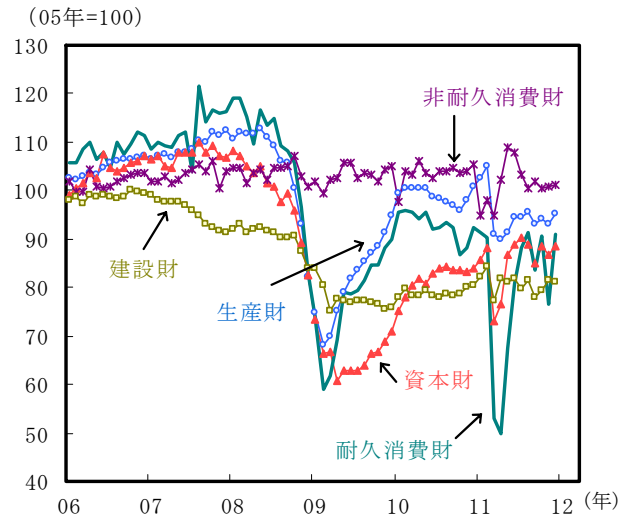
耐久消費財の反動増が顕著

鉱工業生産指数の変化率

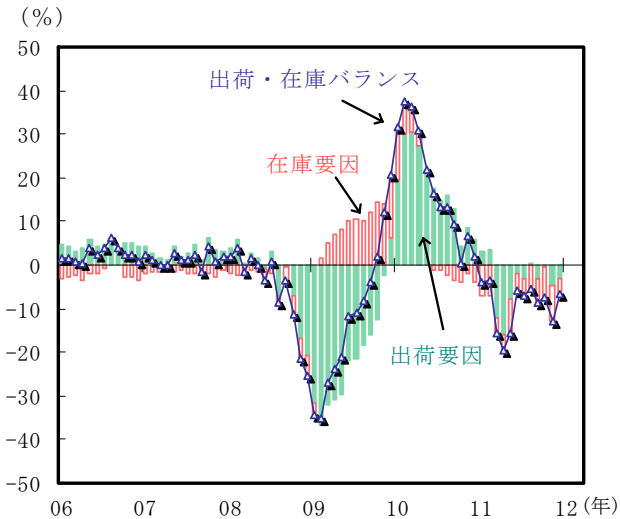


(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

財別の生産指数(季節調整値)

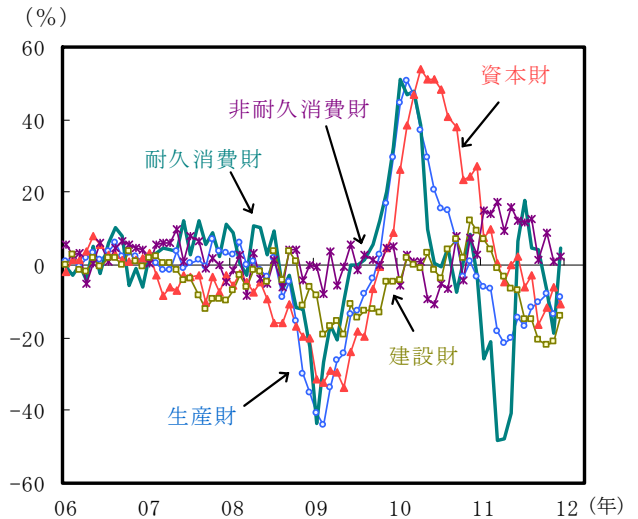


鉱工業生産指数の出荷・在庫バランス

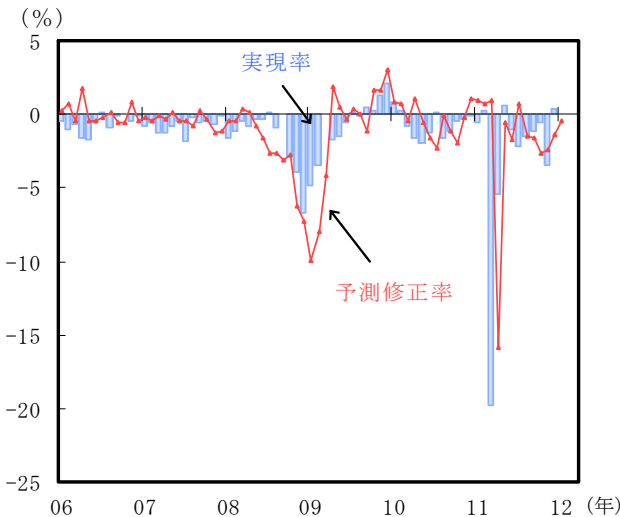


(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

財別の出荷・在庫バランス

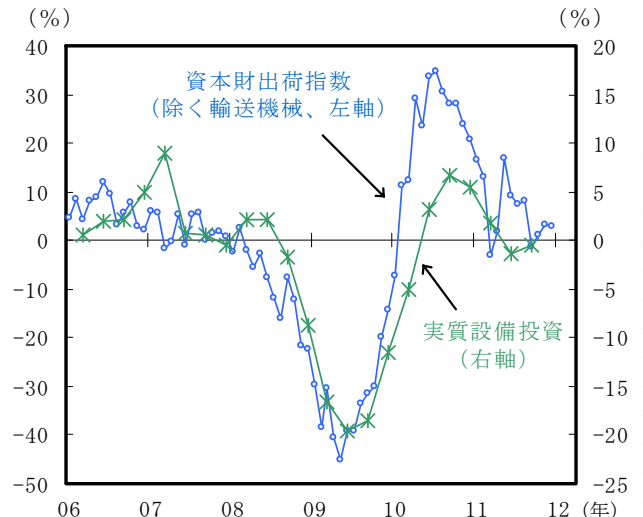


予測修正率と実現率



(出所) 経済産業省、内閣府統計より大和総研作成

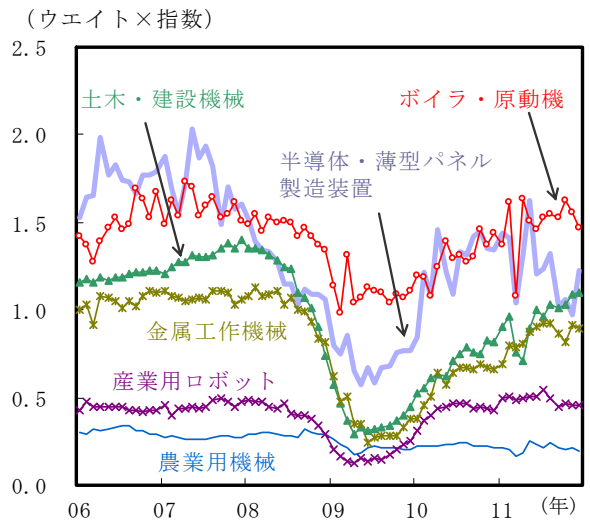
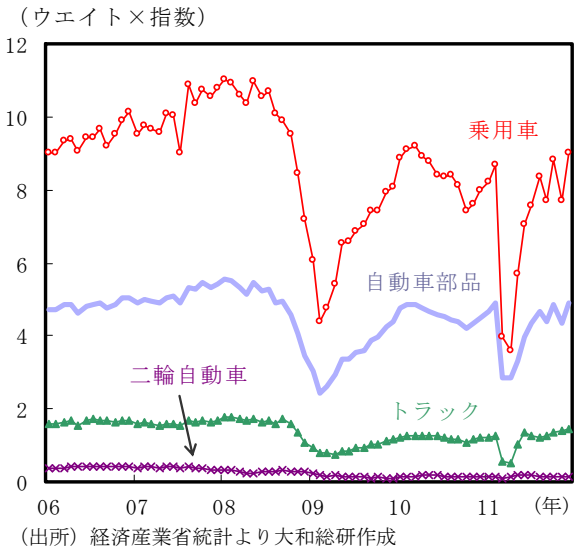
資本財出荷[除く輸送機械]と設備投資(前年比)



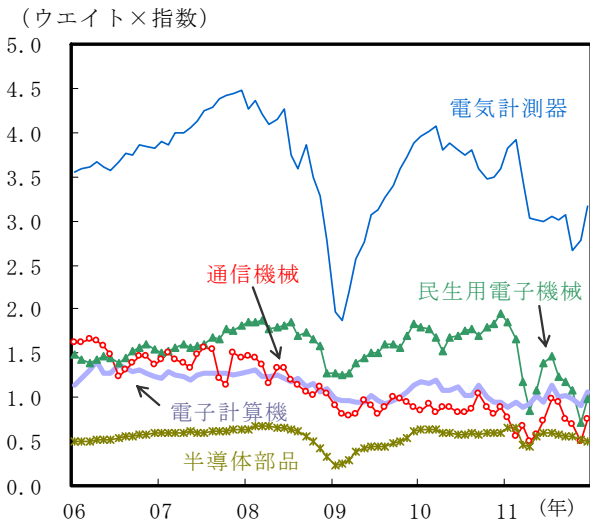
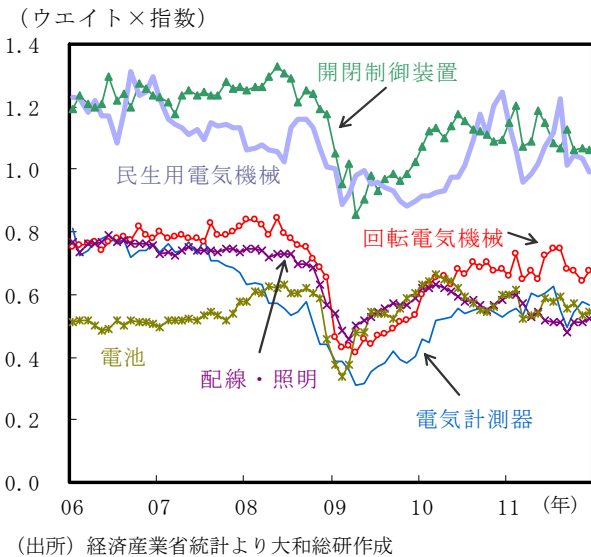
主要産業の生産動向(季節調整値)

輸送機械はほぼ回復

輸送機械 一般機械



電気機械 電子部品・デバイス・情報通信



化学 鉄鋼・非鉄・金属

